

考古天文学会議（仮称）第1回会議

「天文学との連携にもとづく考古学・古代史学研究法の構築」

科学研究費補助金・基盤研究（A） 課題番号：19H00544

2019年度～2022年度（4年間）

プログラム

6月29日（土）

- 13:20～13:50 開会の挨拶と参加者の自己紹介
- 14:00～14:45 「研究の目的と全体計画」（北條芳隆）
「考古天文学からの話題提供」（後藤明－北條代読）
- 15:00～15:45 「日祀部と司命神－雷・太陽・星－」（保立道久）
- 16:00～16:45 「星の民俗誌の向こうに」（高田裕行）
- 16:45～17:30 今後の方向性に関する意見交換
- 18:00～20:00 懇親会（会場は近隣）

6月30日（日）

- 9:20～10:00 「なぜ太陽は忌避されたのか
－戦後の日本考古学を問い直す－」（北條芳隆）
- 10:00～12:30 三鷹キャンパス諸施設の見学（ガイド－高田裕行）
- 12:30 閉会

なぜ太陽は忌避されたのか

—戦後の日本考古学を問い直す—



東海大学文学部 北條芳隆

1. 戦後の日本考古学が採用した基本方針 (記紀神話とどう向き合うべきか)

1. 戦後の日本考古学が採用した基本方針 (記紀神話とどう向き合うべきか)

「皇国史観からの脱却」という大命題



記紀神話は虚構だから遺跡の実態とは「無縁」だと断定し、実在性が疑われる開化天皇以前の検討を遮断した

1. 戦後の日本考古学が採用した基本方針

(記紀神話とどう向き合うべきか)

「皇国史観からの脱却」という大命題



記紀神話は虚構だから遺跡の実態とは「無縁」だと断定し、実在性が疑われる開化天皇以前の検討を遮断した

遺跡や古墳に対する研究は人間同士の支配-被支配関係のみに収斂され「政治史」研究が主体となった

1. 戦後の日本考古学が採用した基本方針 (記紀神話とどう向き合うべきか)

「皇国史観からの脱却」という大命題



記紀神話は虚構だから遺跡の実態とは「無縁」だと断定し、実在性が疑われる開化天皇以前の検討を遮断した

遺跡や古墳に対する研究は人間同士の支配-被支配関係のみに収斂され「政治史」研究が主体となった

記紀神話は虚構だから「神武東征」も虚構だとみなす

「皇国史観からの脱却」という大命題

不可知の領域

虚構ゆえに検討しても意味がない事象

神話とりわけ「天照大神」

排除すべき視座

外部勢力からの支配・受動的展開

神武東征・騎馬民族征服王朝説

検討すべき領域

国家形成過程とりわけ大和政権

大和を核とする階級社会の成立

(生産様式論・分業論)

「皇国史観からの脱却」という大命題

不可知の領域

虚構ゆえに検討しても意味がない事象

神話とりわけ「天照大神」 →

排除すべき視座

外部勢力からの支配・受動的展開

神武東征・騎馬民族征服王朝説

オカルティズムの領域

太陽の運行と遺跡の軸線との対応・非対応の関係

太陽・月・星・火山・聖山への信仰や祭祀との関係

検討すべき領域

国家形成過程とりわけ大和政権

大和を核とする階級社会の成立

(生産様式論・分業論)

「皇国史観からの脱却」という大命題

不可知の領域

虚構ゆえに検討しても意味がない事象

神話とりわけ「天照大神」

排除すべき視座

外部勢力からの支配・受動的展開

神武東征・騎馬民族征服王朝説

オカルティズムの領域

太陽の運行と遺跡の軸線との対応・非対応の関係

太陽・月・星・火山・聖山への信仰や祭祀との関係

「主体性」という名の土着大和民族中心主義

検討すべき領域

国家形成過程とりわけ大和政権

大和を核とする階級社会の成立

(生産様式論・分業論)

「皇国史観からの脱却」という大命題

不可知の領域

虚構ゆえに検討しても意味がない事象

神話とりわけ「天照大神」

排除すべき視座

外部勢力からの支配・受動的展開

神武東征・騎馬民族征服王朝説

検討すべき領域

国家形成過程とりわけ大和政権

大和を核とする階級社会の成立

(生産様式論・分業論)

オカルティズムの領域

太陽の運行と遺跡の軸線との対応・非対応の関係

太陽・月・星・火山・聖山への信仰や祭祀との関係

「主体性」という名の土着大和民族中心主義

人文科学としての考古学

エンゲルスの『起源』

V.Gチャイルドの『都市革命』

「魏志倭人伝」重視

「皇国史観からの脱却」という大命題

不可知の領域

虚構ゆえに検討しても意味がない事象

神話とりわけ「天照大神」

排除すべき視座

外部勢力からの支配・受動的展開

神武東征・騎馬民族征服王朝説

検討すべき領域

国家形成過程とりわけ大和政権

大和を核とする階級社会の成立

(生産様式論・分業論)

オカルティズムの領域

太陽の運行と遺跡の軸線との対応・非対応の関係

太陽・月・星・火山・聖山への信仰や祭祀との関係

「主体性」という名の土着大和民族中心主義

人文科学としての考古学

エンゲルスの『起源』

V.Gチャイルドの『都市革命』

「魏志倭人伝」重視

検討対象資料と議論の焦点

人為的構造物

弥生墳丘墓や古墳・古墳群

立地・墳丘規模・副葬品

格差

人間同士の上下関係

荘厳な葬送儀礼

祖霊祭祀

周辺景観

祭祀遺跡

水源への祭祀・峠の祭祀

人間と自然との関係

上記の周辺景観・自然環境は
左の人間社会全体を包むはず

検討対象資料と議論の焦点

人為的構造物

弥生墳丘墓や古墳・古墳群

立地・墳丘規模・副葬品

格差

人間同士の上下関係

荘厳な葬送儀礼

祖霊祭祀

周辺景観

祭祀遺跡

水源への祭祀・峠の祭祀

畏怖・畏敬の念

人間と自然との関係

上記の周辺景観・自然環境は
左の人間社会全体を包むはず

検討対象資料と議論の焦点

人為的構造物

弥生墳丘墓や古墳・古墳群

立地・墳丘規模・副葬品

格差

人間同士の上下関係

荘厳な葬送儀礼

祖霊祭祀

周辺景観

祭祀遺跡

水源への祭祀・峠の祭祀

畏怖・畏敬の念

人間と自然との関係

上記の周辺景観・自然環境は
左の人間社会全体を包むはず

右側の議論と左側の議論は終始連動しない構造

2. 在野の考古学者原田大六と平原1号墓



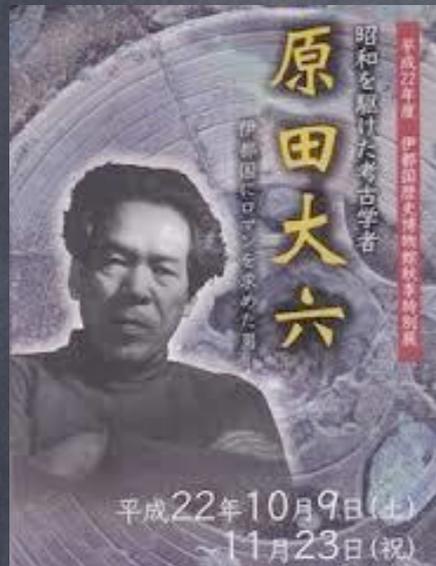
2. 在野の考古学者原田大六と平原1号墓



復員後、九州大学の医学者・中山平次郎に師事し中山の「神武東征」実在説を引き継ぐと決意



2. 在野の考古学者原田大六と平原1号墓



復員後、九州大学の医学者・中山平次郎に師事し中山の「神武東征」実在説を引き継ぐと決意

処女作の『日本古墳文化-奴国王の環境-』（1954年）は東京大学出版会から刊行されたが、出版後わずか1ヶ月で第2刷が完売となったことを機に絶版の憂き目にあう



2. 在野の考古学者原田大六と平原1号墓



復員後、九州大学の医学者・中山平次郎に師事し中山の「神武東征」実在説を引き継ぐと決意

処女作の『日本古墳文化—奴国王の環境—』(1954年)は東京大学出版会から刊行されたが、出版後わずか1ヶ月で第2刷が完売となったことを機に絶版の憂き目にあう



昭和40年(1965年)2月に偶然の発見で平原1号墓の発掘調査を実施。その成果は『実在した神話』(1966年)で公表された。被葬者をオオヒルメノムチ(天照大神)のモデルになった人物だとする原田説を日本考古学界は完全に無視した

2. 在野の考古学者原田大六と平原1号墓



復員後、九州大学の医学者・中山平次郎に師事し中山の「神武東征」実在説を引き継ぐと決意

処女作の『日本古墳文化—奴国王の環境—』(1954年)は東京大学出版会から刊行されたが、出版後わずか1ヶ月で第2刷が完売となったことを機に絶版の憂き目にあう



昭和40年(1965年)2月に偶然の発見で平原1号墓の発掘調査を実施。その成果は『実在した神話』(1966年)で公表された。被葬者をオオヒルメノムチ(天照大神)のモデルになった人物だとする原田説を日本考古学界は完全に無視した

古墳時代研究にとって平原1号墓は現在も「鬼門」

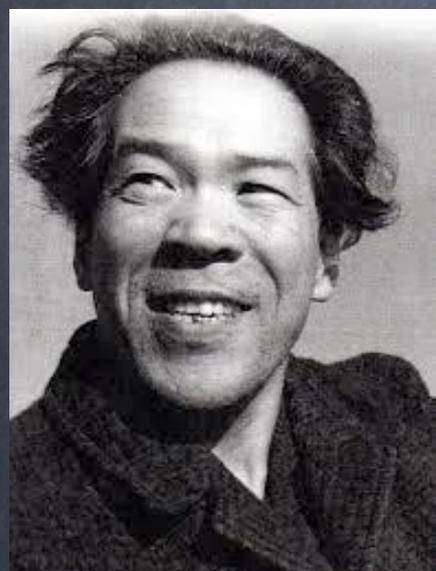
処女作 『日本古墳文化—奴国王の環境—』 の絶版騒動



処女作『日本古墳文化—奴国王の環境—』の絶版騒動



「（発売から）一週間も立たぬのに再版通知があり、さて第三版の校正をと待機していたのに、二ヶ月目にぽったり出版社からの便りが途絶えた—中略—なぜか。この本を出版社に世話した和島誠一氏が、丁度福岡にやってきたのをさいわいに、どうなったかを聞いてみた。



和島氏『絶版にした』、私「なぜ」、和島氏「売れすぎるから」、私「売れたら何が悪い」、和島氏「あんな考えが世間に浸透しては困るというみんなの意見だ」、私「みんなとは誰と誰」、和島氏はそれには答えなかった。答えのないみんなの顔を私は思い浮かべていた。藤間生大氏か、それとも三上次男氏か、近藤義郎氏か、さもなくば内藤晃氏かと」

処女作『日本古墳文化—奴国王の環境—』の絶版騒動



「（発売から）一週間も立たぬのに再版通知があり、さて第三版の校正をと待機していたのに、二ヶ月目にぱったり出版社からの便りが途絶えた—中略—なぜか。この本を出版社に世話した和島誠一氏が、丁度福岡にやってきたのをさいわいに、どうなったかを聞いてみた。

和島氏『絶版にした』、私「なぜ」、和島氏「売れすぎるから」、私「売れたら何が悪い」、和島氏「あんな考えが世間に浸透しては困るというみんなの意見だ」、私「みんなとは誰と誰」、和島氏はそれには答えなかった。答えのないみんなの顔を私は思い浮かべていた。藤間生大氏か、それとも三上次男氏か、近藤義郎氏か、さもなくば内藤晃氏かと」

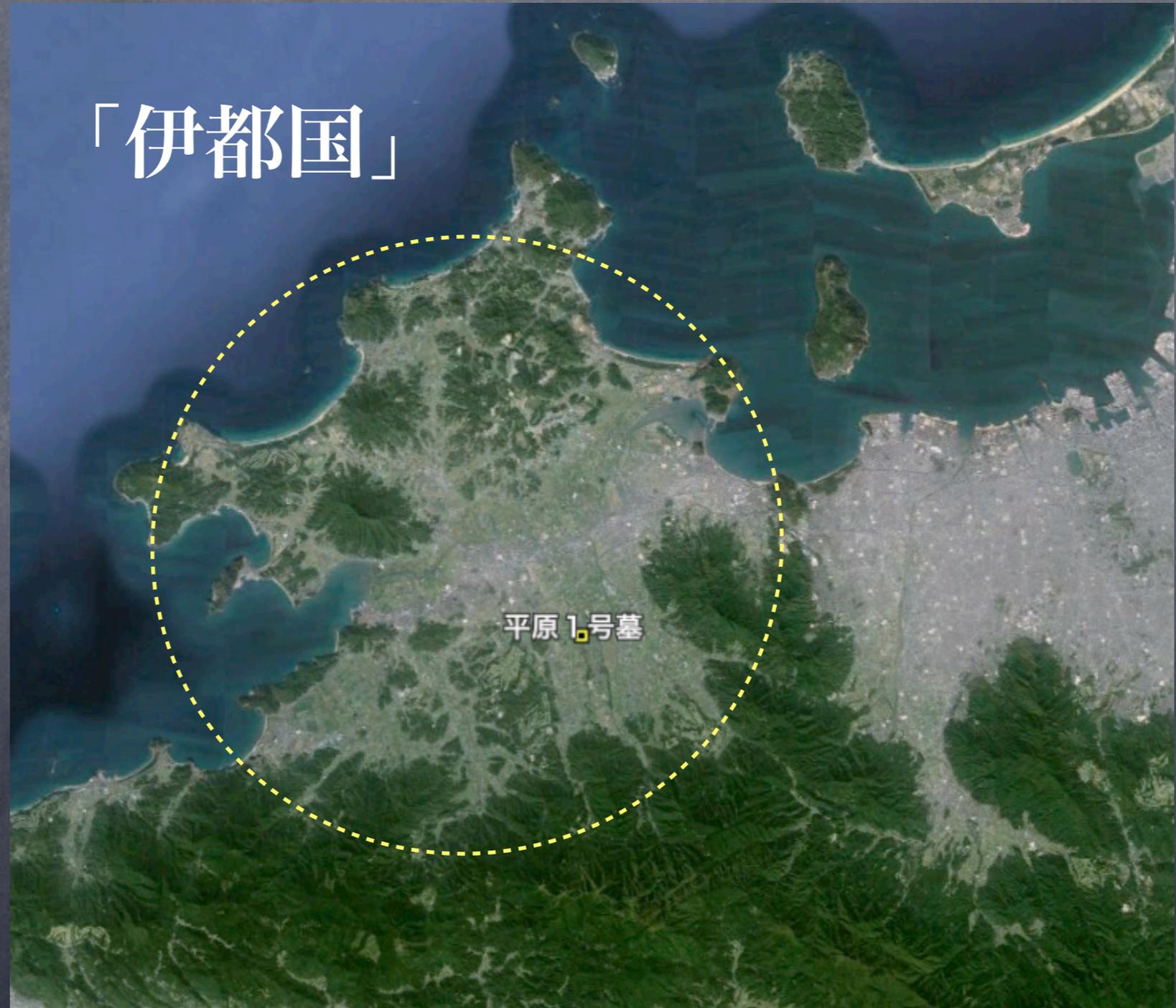


絶版が宣告された理由：「記紀の神代史にはモデルがあり、考古学上からも証明される。決して後世のでっちあげではないと述べたところ」

3. 日の出農事暦の復元

(福岡県平原1号墓)

「伊都国」



福岡県平原1号墓（弥生終末期）にみる日の出と暦

在野の考古学者原田大六によって1965年に発掘調査が実施され、日本列島最大の鏡5面を含む40面の青銅鏡が出土。被葬者を伊都国女王の墓とし、日向峠から昇る陽光で身籠もる神女説を唱えたために学界から無視される。1998年の再調査によって墳丘の東から「大柱」跡を確認。日向峠に埋葬の主軸を向ける事実関係が再確認された。



福岡県平原1号墓（弥生終末期）にみる日の出と暦

在野の考古学者原田大六によって1965年に発掘調査が実施され、日本列島最大の鏡5面を含む40面の青銅鏡が出土。被葬者を伊都国女王の墓とし、日向峠から昇る陽光で身籠もる神女説を唱えたために学界から無視される。1998年の再調査によって墳丘の東から「大柱」跡を確認。日向峠に埋葬の主軸を向ける事実関係が再確認された。

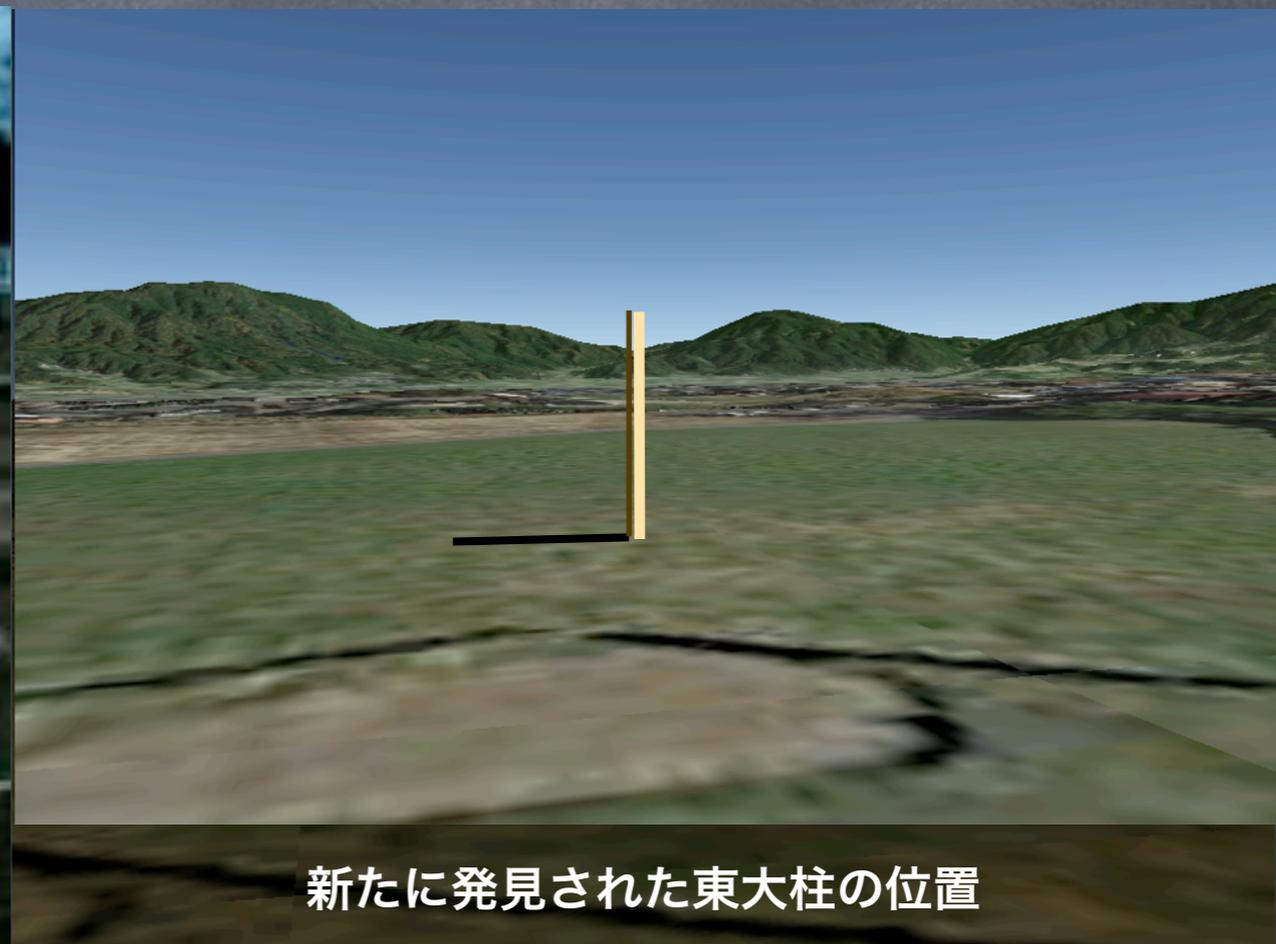
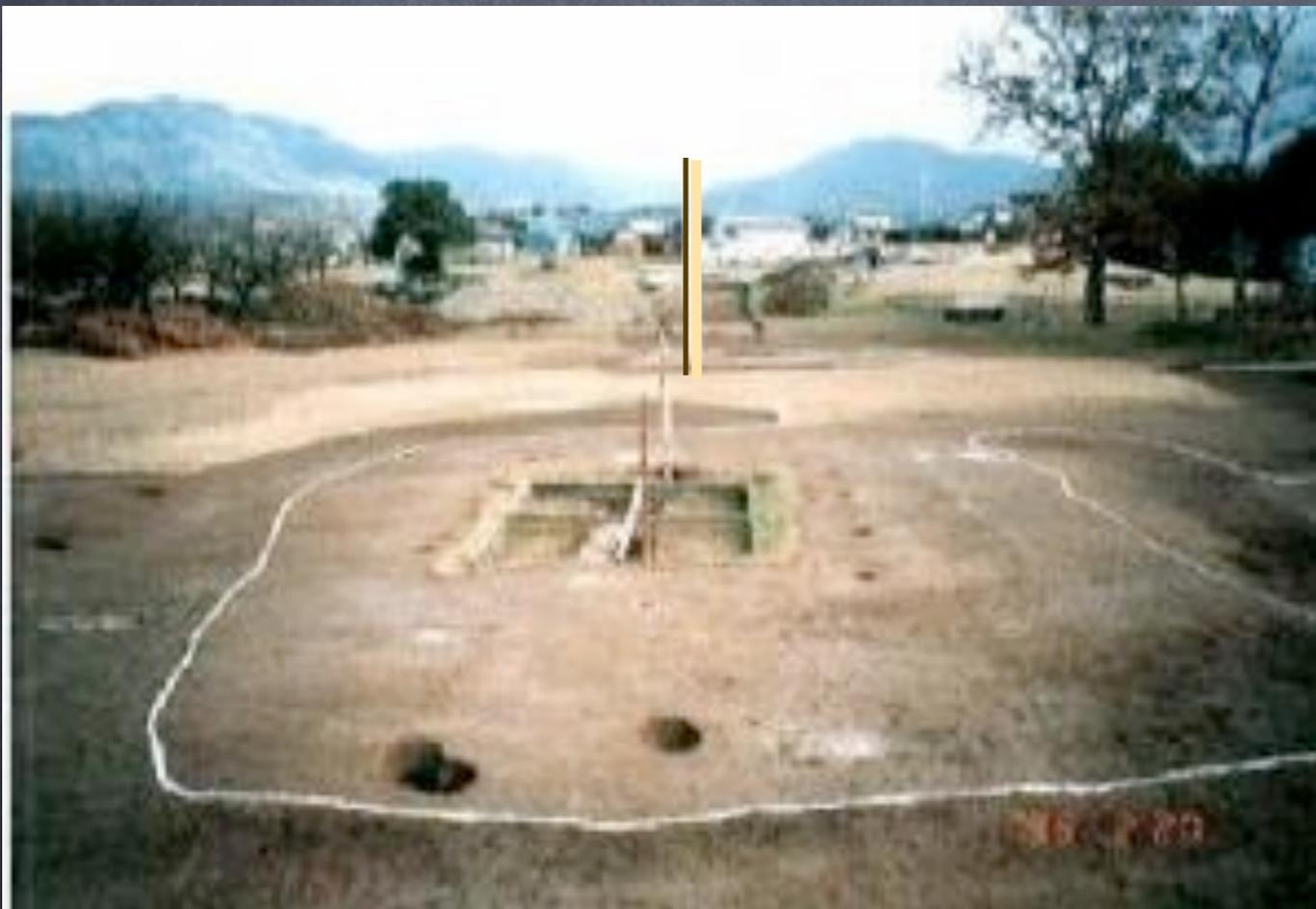
10月20日の朝の陽光と、のちの「神嘗祭」との関係



福岡県平原1号墓（弥生終末期）にみる日の出と暦

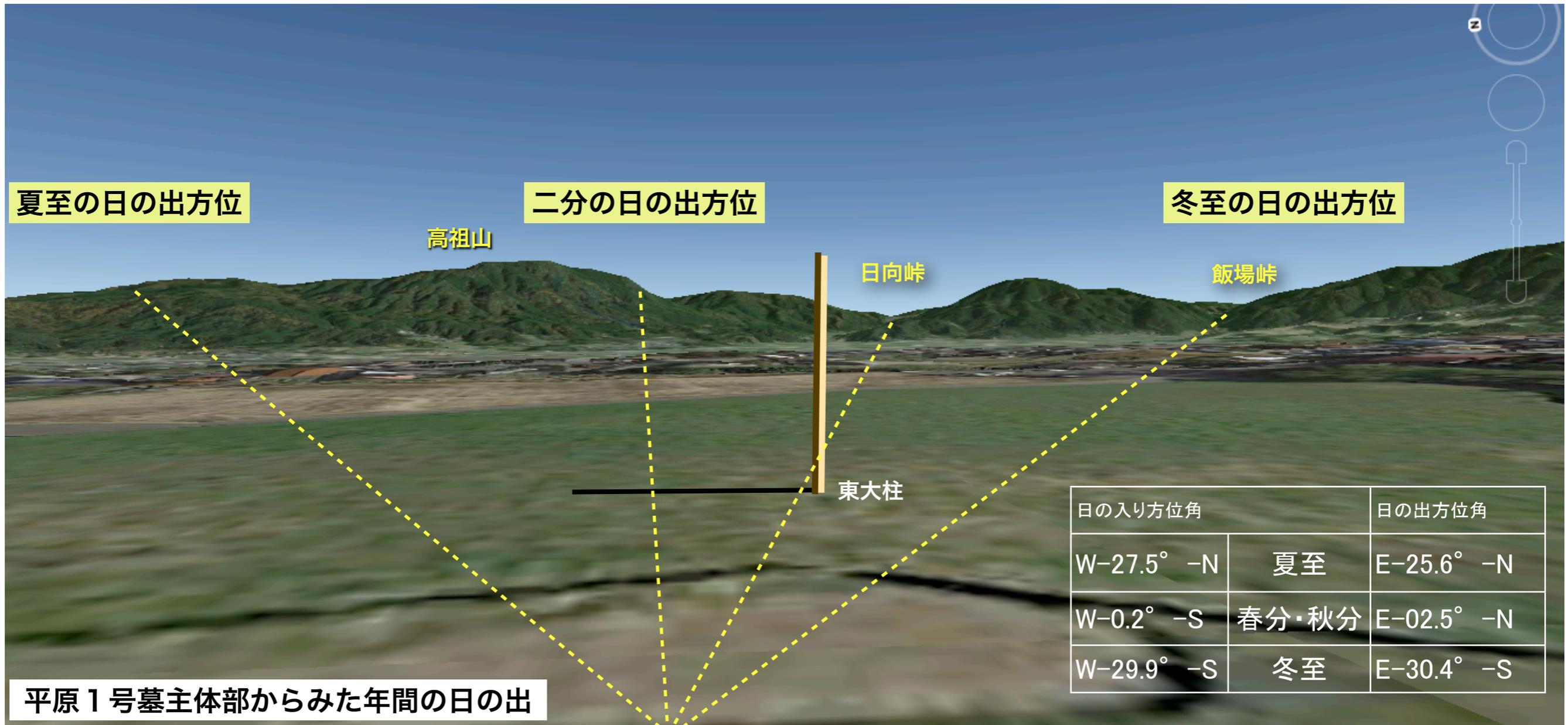
在野の考古学者原田大六によって1965年に発掘調査が実施され、日本列島最大の鏡5面を含む40面の青銅鏡が出土。被葬者を伊都国女王の墓とし、日向峠から昇る陽光で身籠もる神女説を唱えたために学界から無視される。1998年の再調査によって墳丘の東から「大柱」跡を確認。日向峠に埋葬の主軸を向ける事実関係が再確認された。

10月20日の朝の陽光と、のちの「神嘗祭」との関係



新たに発見された東大柱の位置

福岡県平原 1 号墓（弥生終末期） にみる日の出と暦



平原 1 号墓主体部からみた年間の日の出

山・鞍部 (峠)	北緯	東経	平原 1 号墓からの方位角	距離
可也山 (西北西)	33°34'18.20"	130°09'43.99"	298°09'00"	6,968m
高祖山 (東)	33°32'53.30"	130°16'07.29"	80°19'48"	3,723m
宮地岳 (西)	33°32'29.46"	130°10'55.84"	268°50'24"	269m
日向峠 (東)	33°31'48.40"	130°17'15.76"	103°47'40"	5,674m
王丸山 (東)	33°31'29.25"	130°16'50.30"	111°56'24"	5,225m
飯場峠 (東南東)	33°30'40.06"	130°17'12.57"	122°43'12"	6,432m
平原 1 号墓主体部	33°32'32.36"	130°13'42.22"		

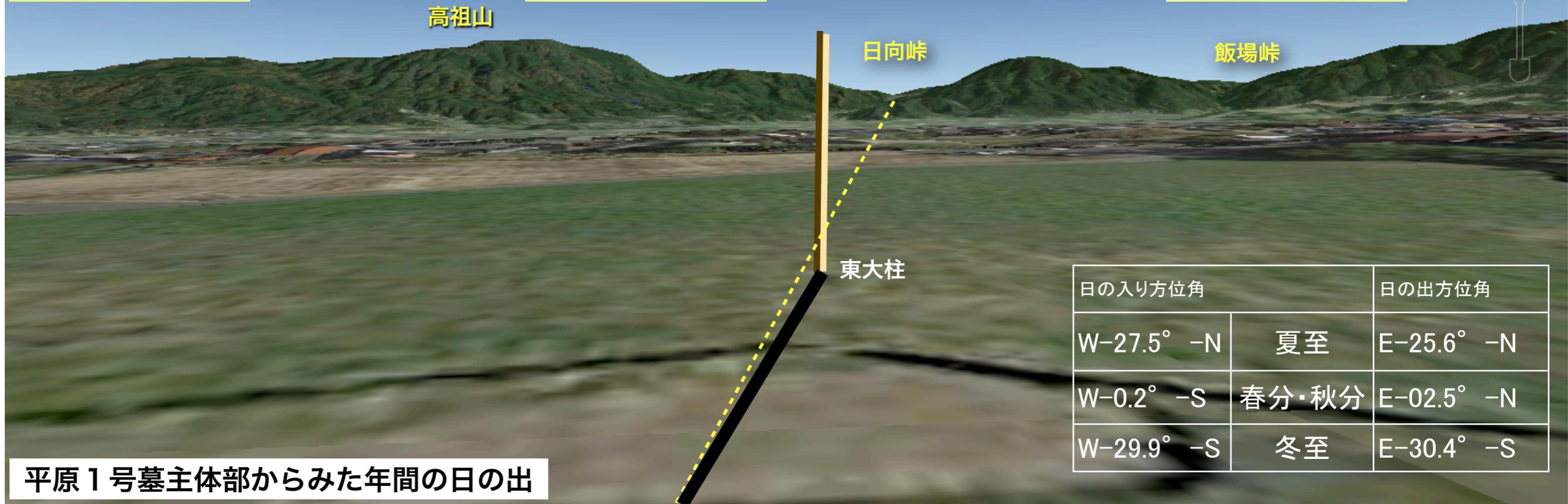
福岡県平原 1 号墓（弥生終末期） にみる日の出と暦

柱の機能は影を直線的に伸ばすこと

夏至の日の出方位

二分の日の出方位

冬至の日の出方位



日の入り方位角		日の出方位角	
W-27.5° -N	夏至	E-25.6° -N	
W-0.2° -S	春分・秋分	E-02.5° -N	
W-29.9° -S	冬至	E-30.4° -S	

平原 1 号墓主体部からみた年間の日の出

山・鞍部 (峠)	北緯	東経	平原 1 号墓からの方位角	距離
可也山 (西北西)	33°34'18.20"	130°09'43.99"	298°09'00"	6,968m
高祖山 (東)	33°32'53.30"	130°16'07.29"	80°19'48"	3,723m
宮地岳 (西)	33°32'29.46"	130°10'55.84"	268°50'24"	269m
日向峠 (東)	33°31'48.40"	130°17'15.76"	103°47'40"	5,674m
王丸山 (東)	33°31'29.25"	130°16'50.30"	111°56'24"	5,225m
飯場峠 (東南東)	33°30'40.06"	130°17'12.57"	122°43'12"	6,432m
平原 1 号墓主体部	33°32'32.36"	130°13'42.22"		

福岡県平原1号墓（弥生終末期）にみる日の出と暦

「魏志倭人伝」の注に引かれた『魏略』の記事

「**魏略曰 其俗不知正歳四節 但計春耕秋収為紀年**」

「『魏略』によれば、倭人は冬至や夏至を知らず、四季の区別も知らない。ただし**春耕と秋の収獲を計ることによって年々の暦とする、とある**」

祈年祭「としごいの祭り」2月17日から23日 ←

春秋一対の祭り

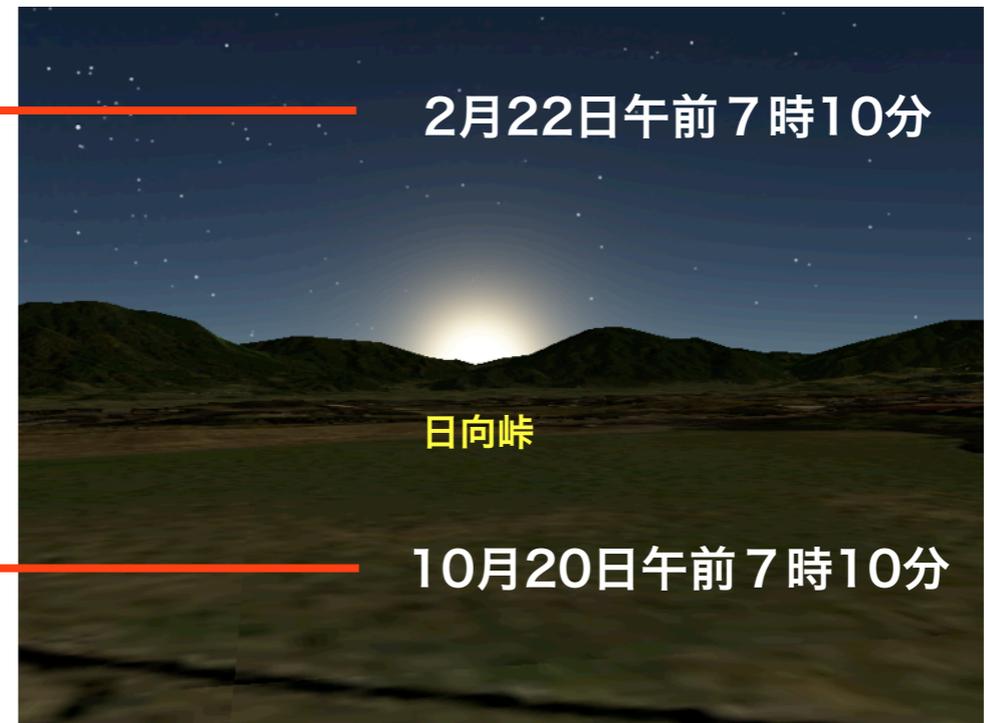
神嘗祭「かんなめ祭」10月15日から25日 ←

伊勢神宮HPより

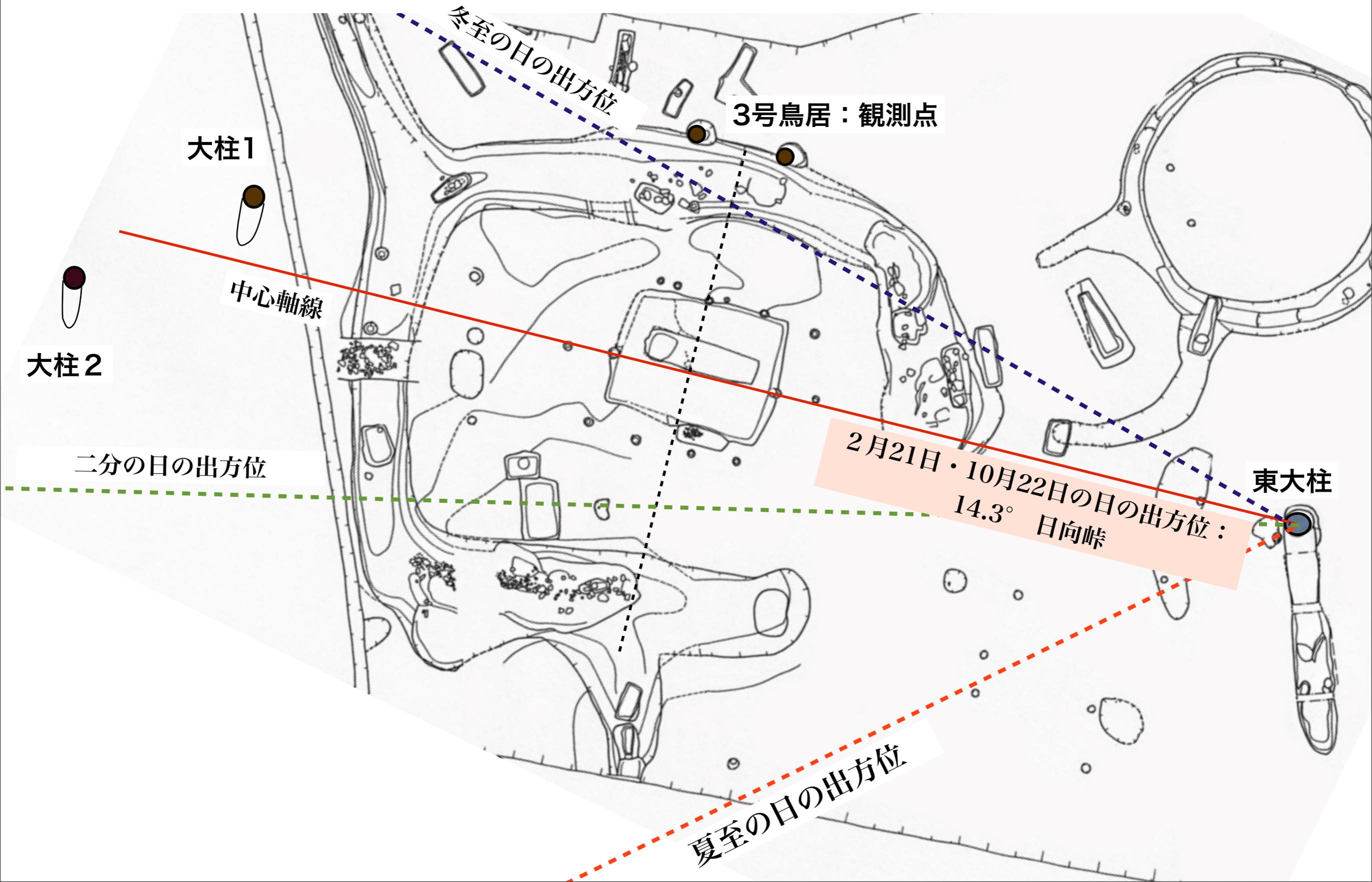
2月22日午前7時10分

日向峠

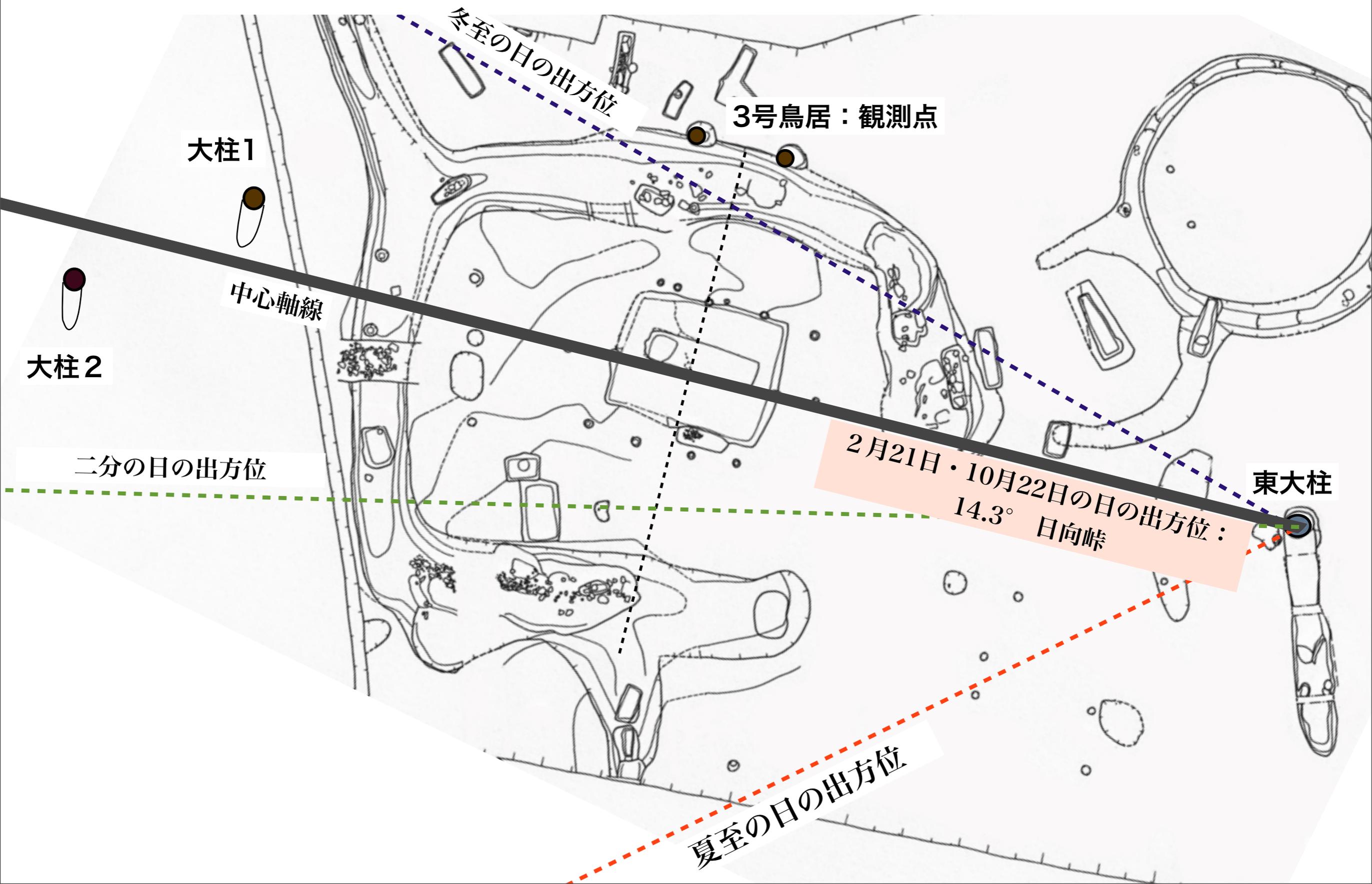
10月20日午前7時10分



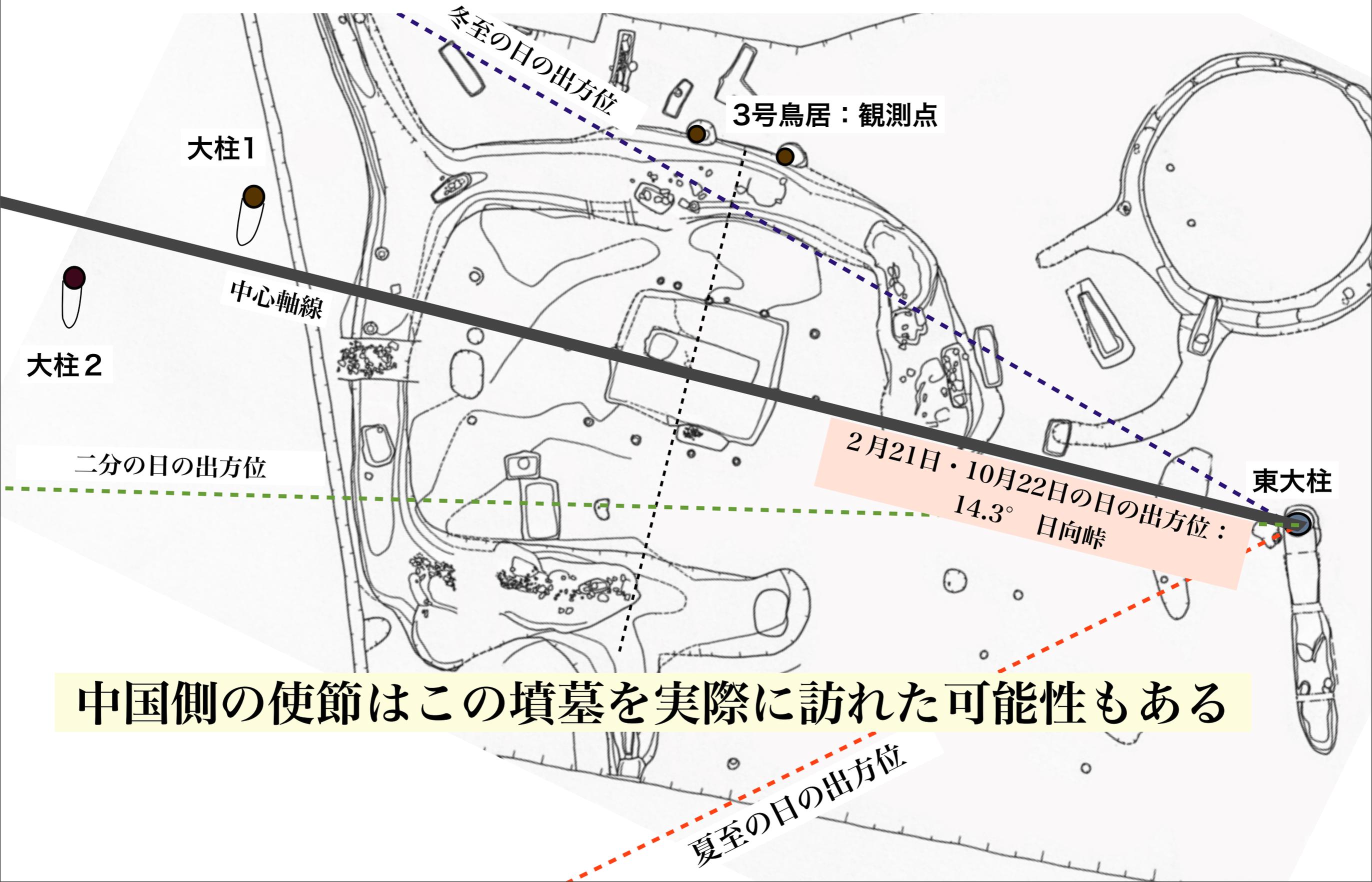
平原1号墓は日の出農事暦計としても機能した



平原1号墓は日の出農事暦計としても機能した



平原1号墓は日の出農事暦計としても機能した



中国側の使節はこの墳墓を実際に訪れた可能性もある

弥生・古墳時代の祭りは暦に則して定期的に実施された



弥生・古墳時代の祭りは暦に則して定期的に実施された



重視されたのは二支二分と「春耕秋収」

弥生・古墳時代の祭りは暦に則して定期的に実施された



重視されたのは二支二分と「春耕秋収」

祭りの対象は祖先や王だけでなく、その上位に火山や太陽が位置づけられた可能性は大きい → 自然と同期・同調を図る祖霊祭祀

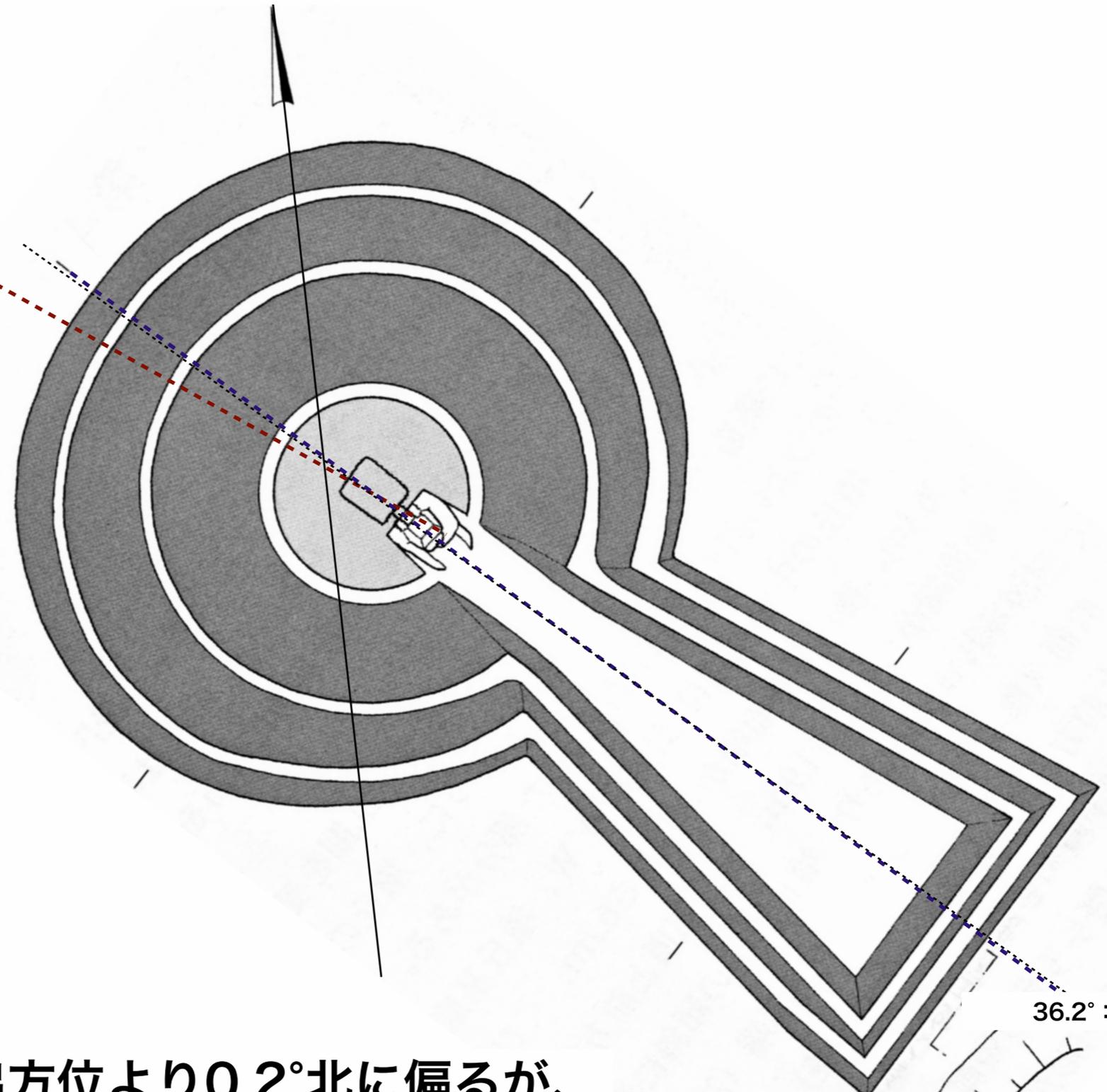
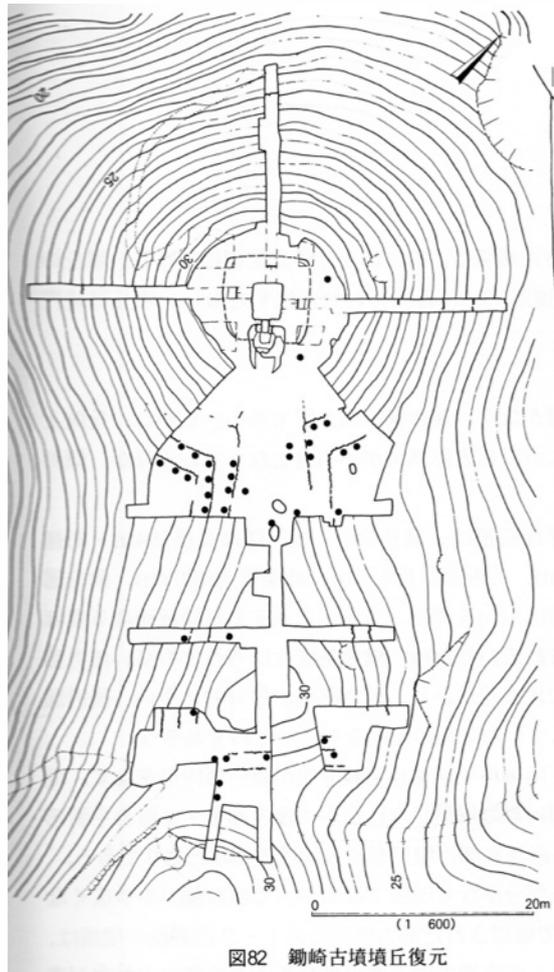
4. 今後必要な作業 天体現象を組み込んだ事例の確認
ケース1：冬至の朝の陽光と横穴式石室墳（福岡県鋤崎古墳）



6°20'w-第II系座標北からの
偏角 = 6.33°w

現地における冬至の日の出方位に軸線と石室開口部 を合わせた鋤崎古墳

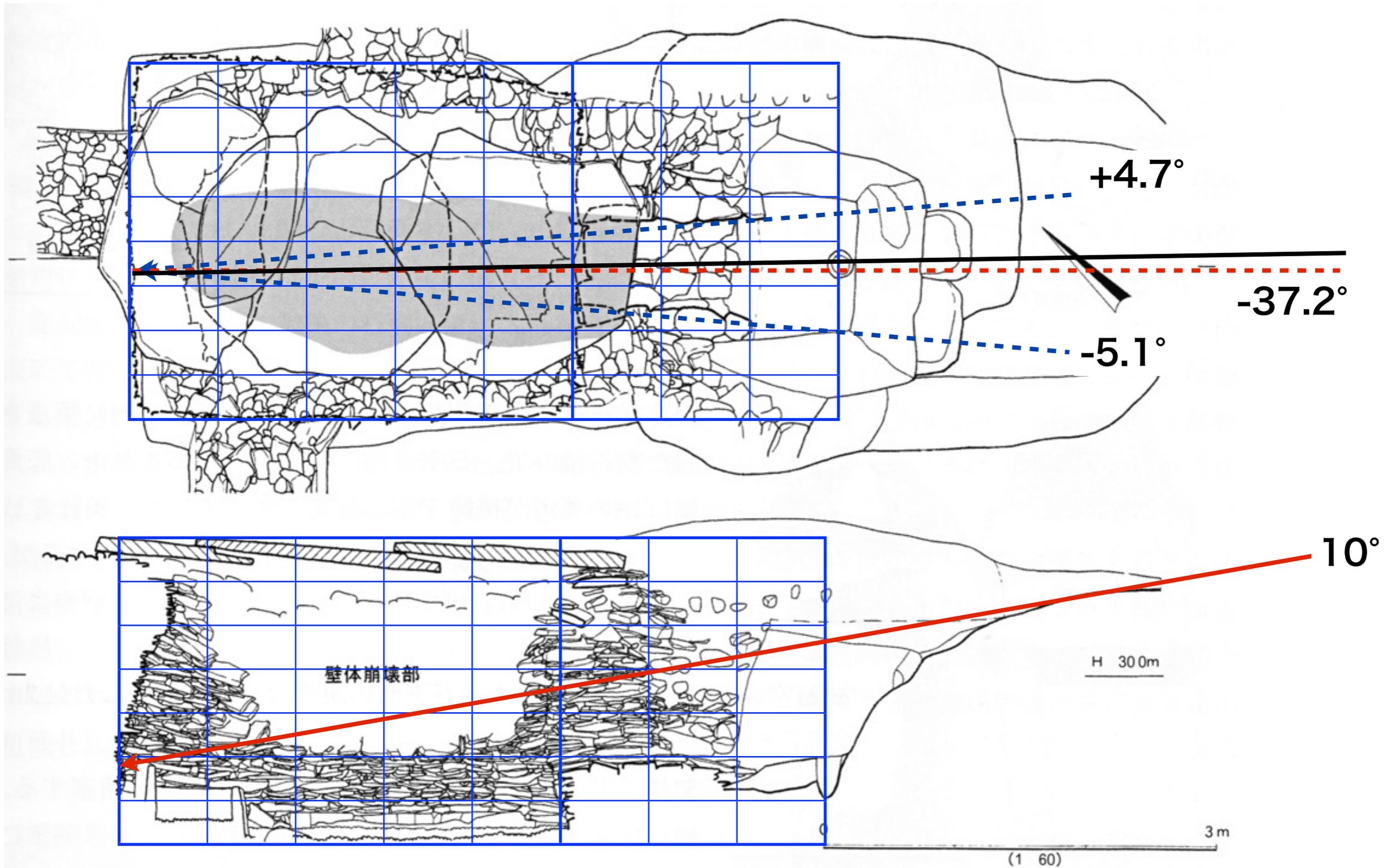
29.2° : 夏至の日の入り



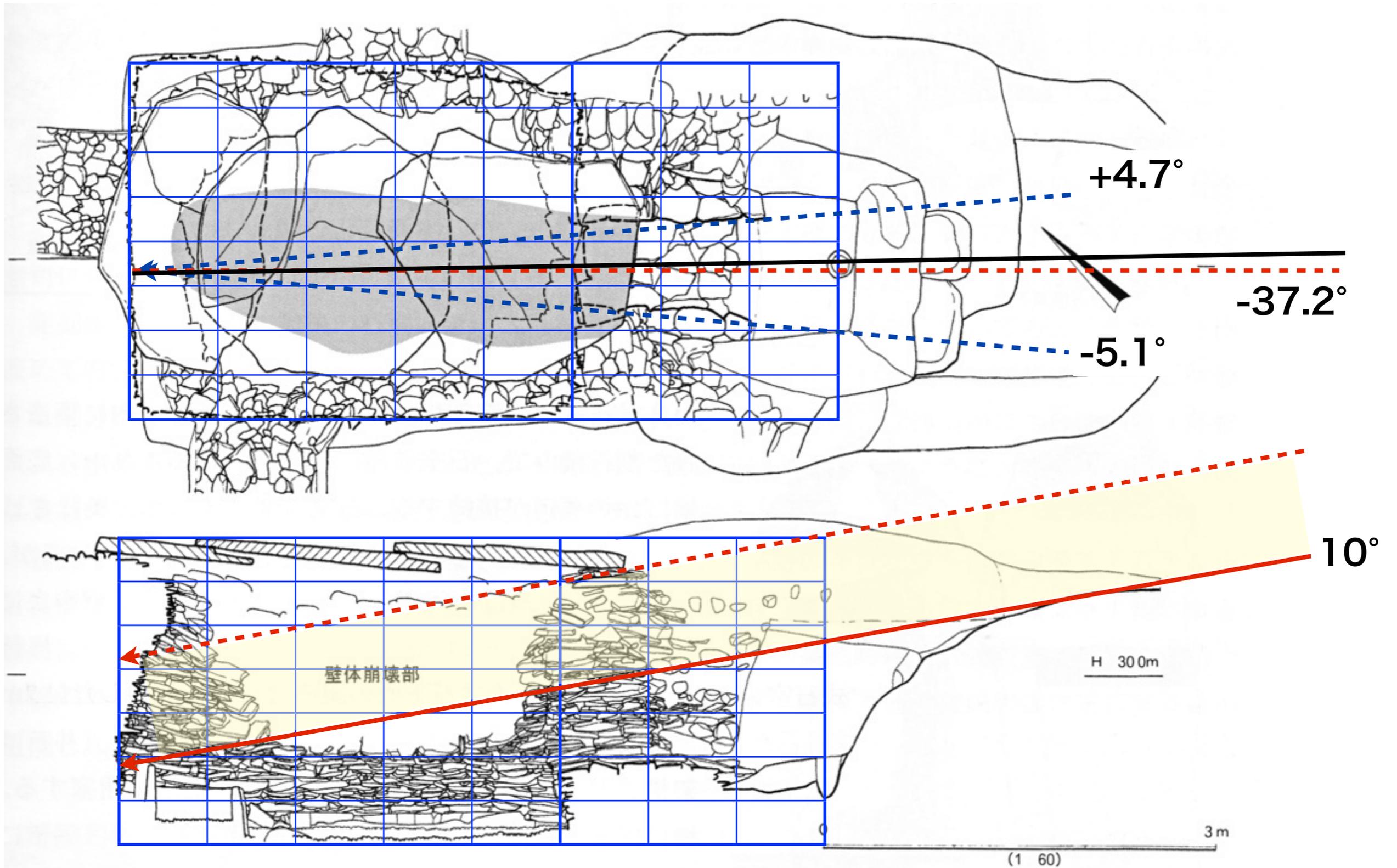
36.2° : 冬至の日の出

墳丘の主軸 (216.0°s)

主軸方位は冬至の日の出方位より0.2°北に偏るが、
問題なく一致するとみてよい



なお墓坑床面の前方部側端に、直径20cm、深さ30cmの小穴が掘削されている。埋土に明確な柱痕跡を確認できなかったが、直径10cm程度の棒（柱）を埋め込んだ可能性がある（報告書 p 64）

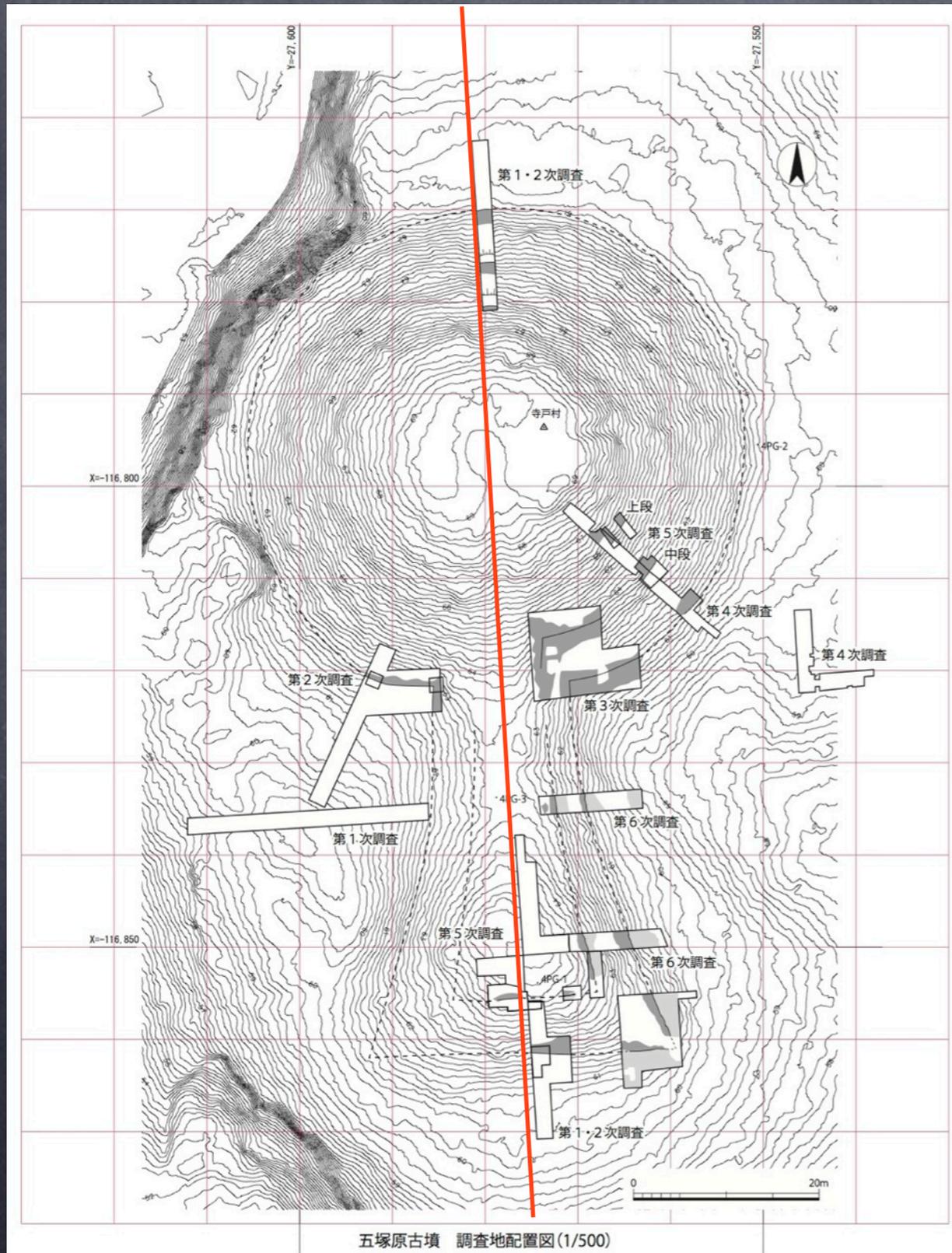


冬至の朝の陽光を石室の奥壁まで届かせる演出

ケース2：京都府向日市五塚原古墳の調査成果

墳丘の中心軸線はTN3.2°W

後円部中心のほぼ真北には同時期の中海道遺跡の大型建物が所在し、その中心軸線は京都盆地の西にそびえる愛宕山に向けられているように観察された（向日市教育委員会1995年調査）



中海道遺跡

中海道遺跡発見の大型建物（3世紀中頃）の軸線は愛宕山を向けていた

寺戸大塚古墳

4世紀後半

妙見山古墳

4世紀後半～末

五塚原古墳

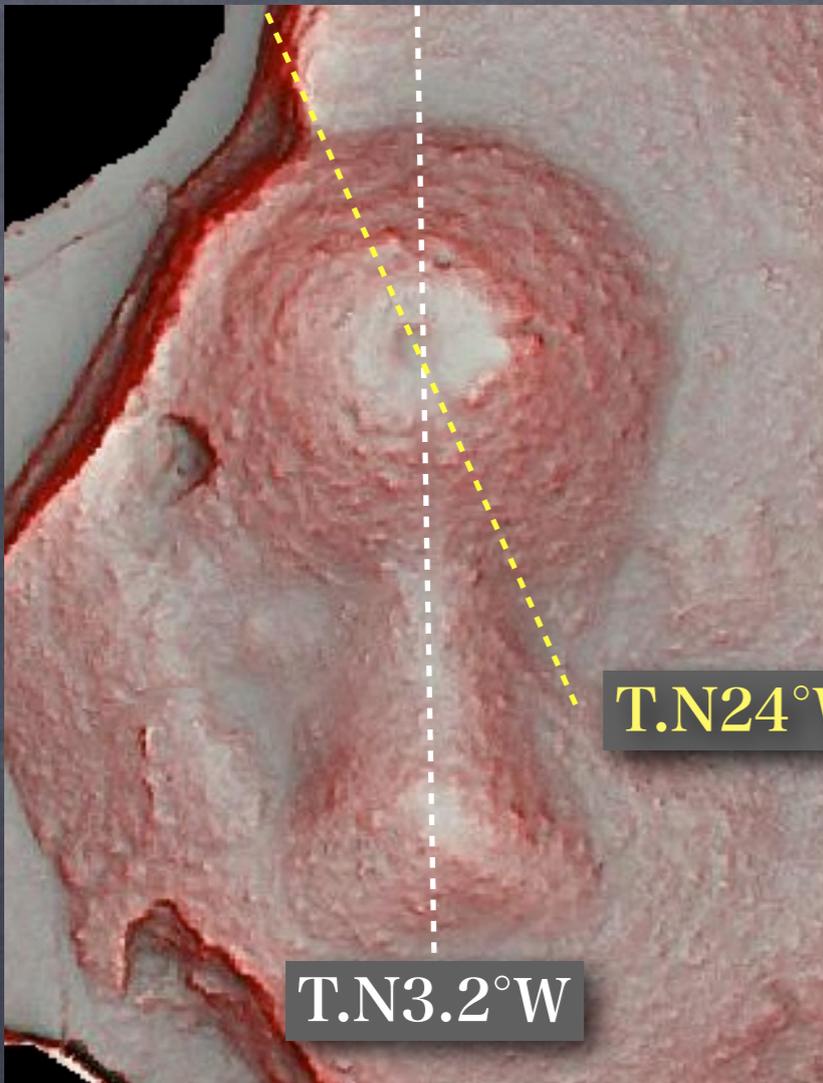
3世紀中葉

古山陰道

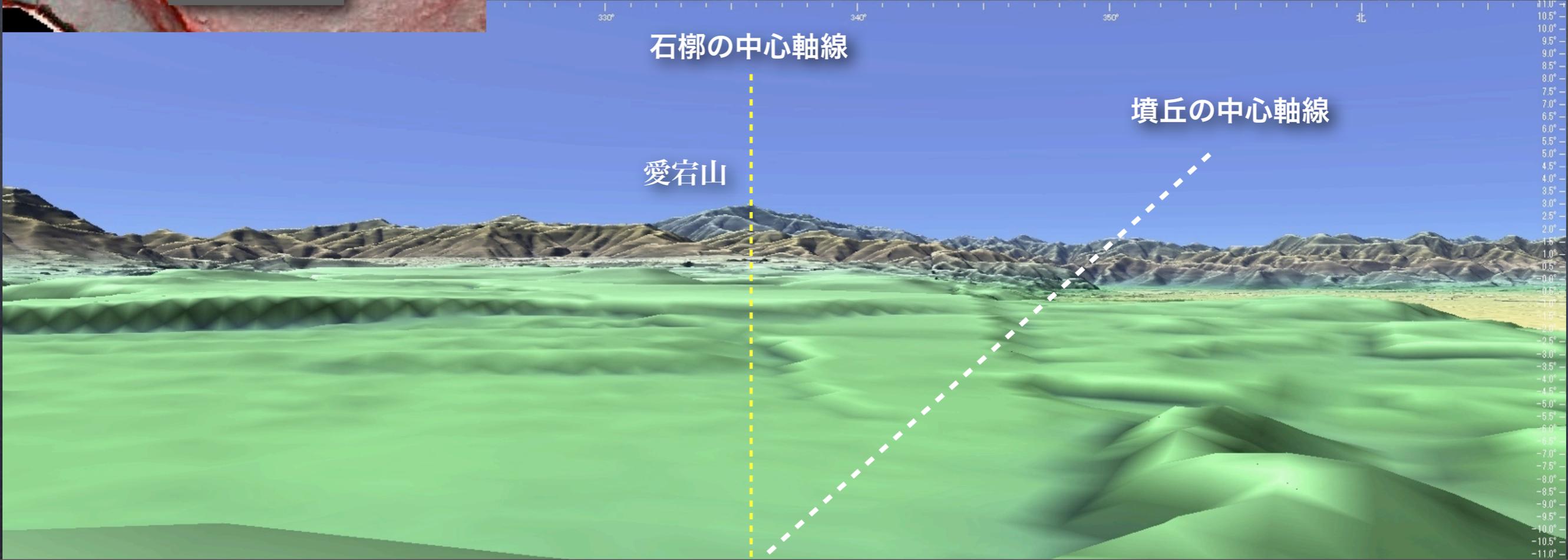
元稻荷古墳

4世紀初頭

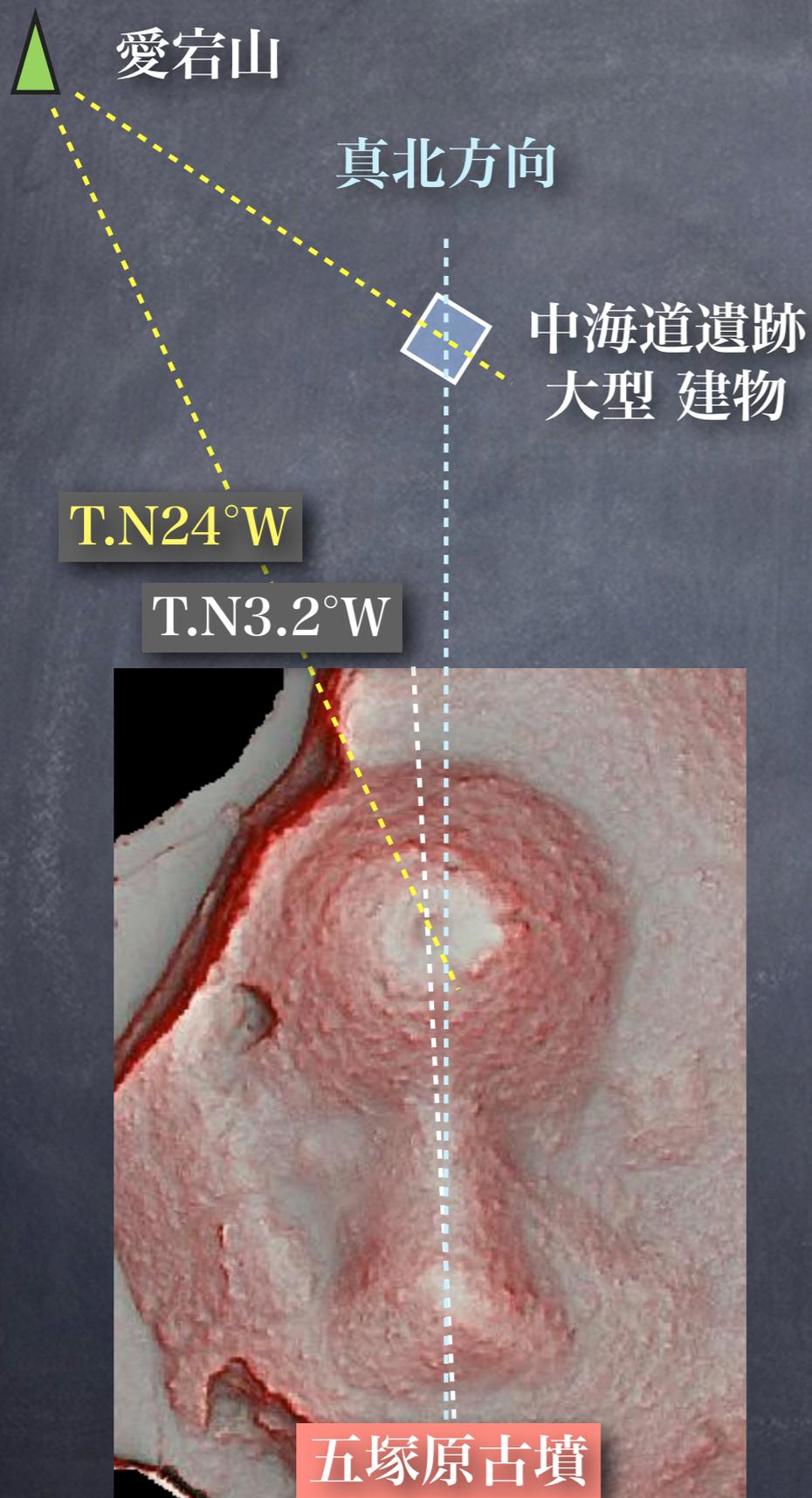
京都府向日丘陵



2018年秋の調査で後円部中心から竪穴式石槨が検出された。
軸線は真北から24°西に傾き（斜交主体部）愛宕山を向く

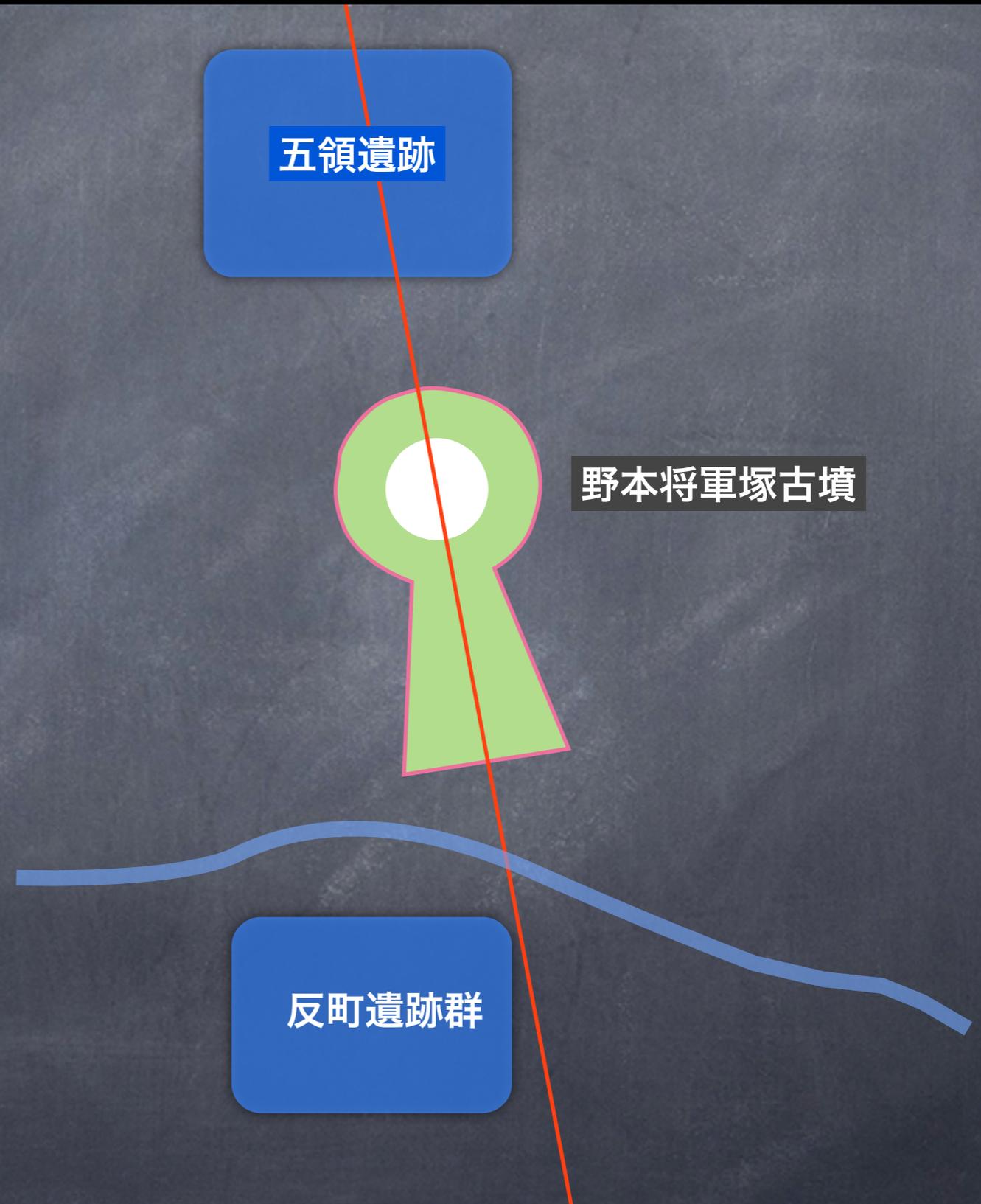


中海道遺跡と五塚原古墳の配列



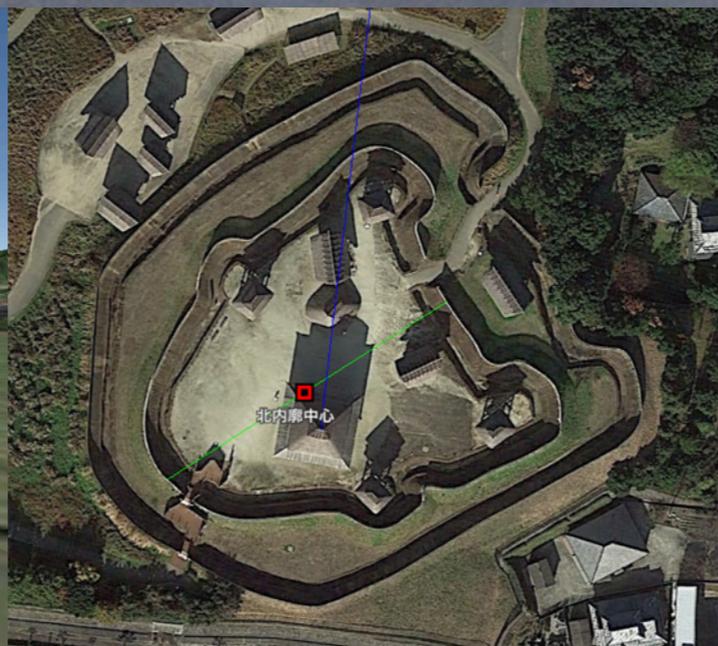
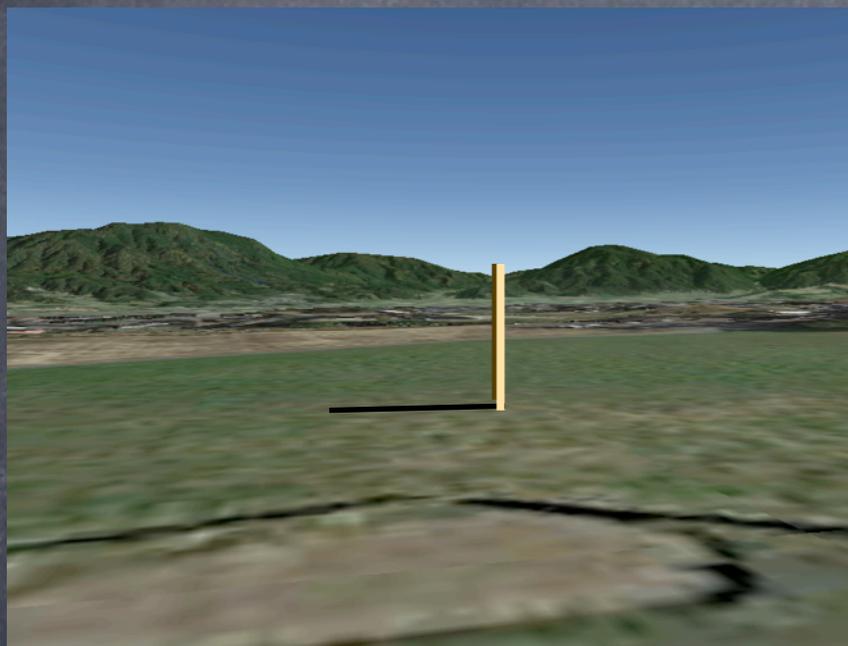
野本將軍塚古墳と五領遺跡の配列

鉤陳星（現在の北極星）AD.300の周回軌道偏角： $TN \pm 12.5^\circ$



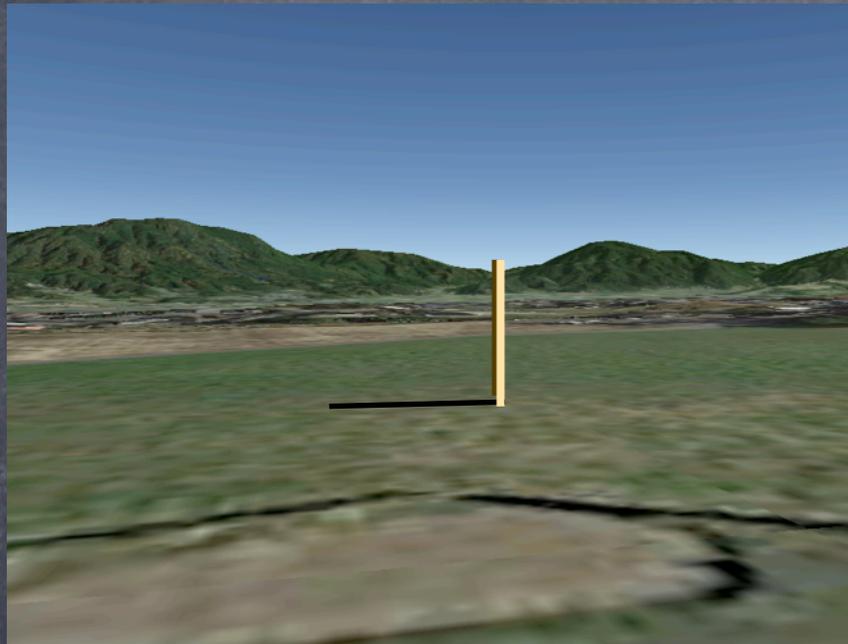
南極老人星（カノーパス）AD.300の視認可能範囲： $TS \pm 12.3^\circ$

古墳時代研究にとって平原1号墓は現在も「鬼門」



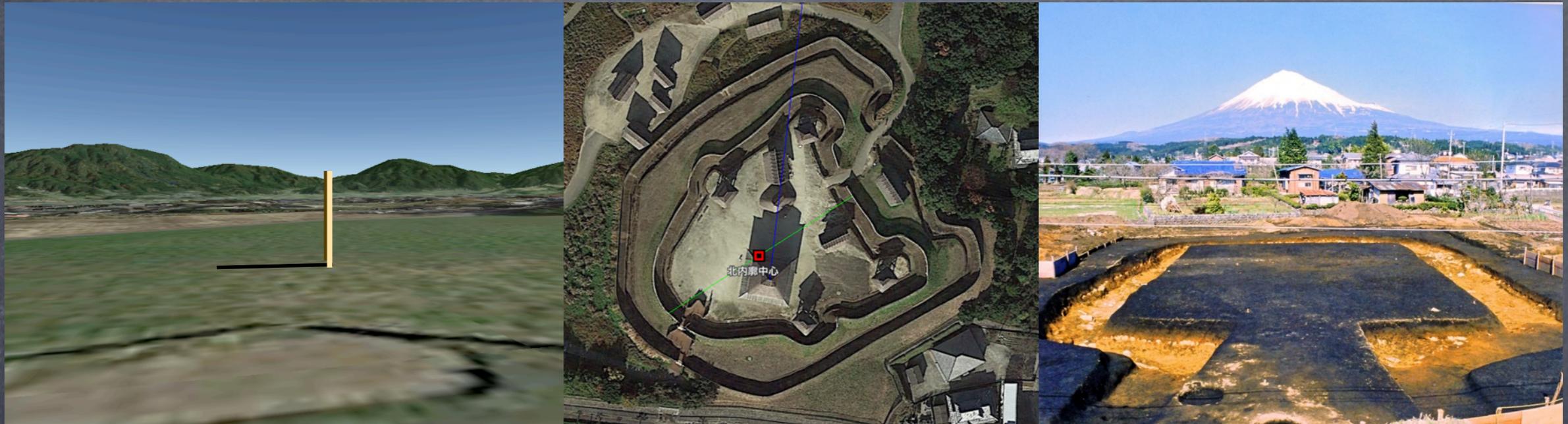
古墳時代研究にとって平原1号墓は現在も「鬼門」

太陽の運行と遺跡の関係をみつめる方向性や、山と遺跡の関係を考察する方向性はタブー視され、それを犯せば、学界からは”オカルト考古学”とのレッテルを貼られる構図が必然化した。



古墳時代研究にとって平原1号墓は現在も「鬼門」

太陽の運行と遺跡の関係をみつめる方向性や、山と遺跡の関係を考察する方向性はタブー視され、それを犯せば、学界からは”オカルト考古学”とのレッテルを貼られる構図が必然化した。

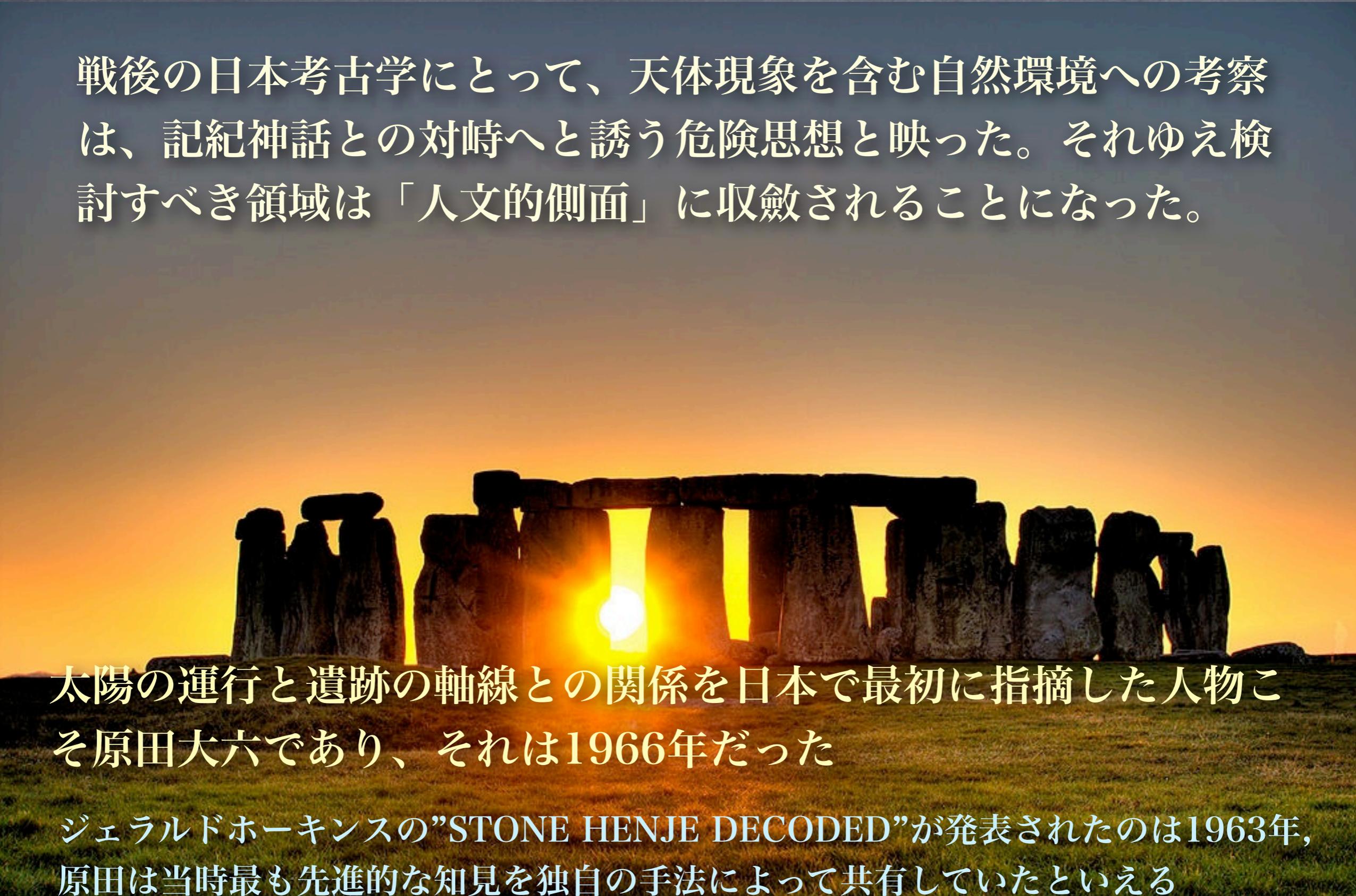


太陽の運行と遺跡の軸線との関係を日本で最初に指摘した人物こそ原田大六であり、それは1966年だった

ジェラルドホーキンスの”STONE HENJE DECODED”が発表されたのは1963年、原田は当時最も先進的な知見を独自の手法によって共有していたといえる

古墳時代研究にとって平原1号墓は現在も「鬼門」

戦後の日本考古学にとって、天体現象を含む自然環境への考察は、記紀神話との対峙へと誘う危険思想と映った。それゆえ検討すべき領域は「人文的側面」に収斂されることになった。



太陽の運行と遺跡の軸線との関係を日本で最初に指摘した人物こそ原田大六であり、それは1966年だった

ジェラルドホーキンスの”STONE HENGE DECODED”が発表されたのは1963年、原田は当時最も先進的な知見を独自の手法によって共有していたといえる

ご静聴に感謝します

今後4年間、よろしくお願ひします